１９９８年１０月０９日　第三種郵便物認可　　（毎月３回８の日発行）
２０２２年１２月２３日発行　ＳＳＫＵ　　増刊通巻　７４９２号

ＳＳＫＵ

２０２２年度
冬号

お元気ですか？
イリアンソスです。

Page2 理事長の散歩道

Page3 特集「きょうされん全国大会 in いわて」

Page7 活動報告

１９９８年１０月０９日　第三種郵便物認可　　（毎月３回８の日発行）
２０２２年１２月２３日発行　ＳＳＫＵ　増刊通巻　７４９２号

連載　理事長の散歩道　㉘

「きょうされん全国大会.inいわて」

社会福祉法人イリアンソス　理事長　磯部光孝

新型コロナ感染により、二〇二〇年と二〇二一年は、きょうされんの全国大会は中止となっていました。そして、今年やっと開催ができ、全国から障害のある仲間や職員が一三〇〇人も集い久々に対面で交流することができ楽しい大会となりました。

会場である岩手県陸前高田市は、みなさんもご存知の通り十一年前の東日本大震災で街の中心地が壊滅しました。それから、大変な苦労や努力をされ復興に力を注ぎ、津波で壊滅した海岸近くの街は、住宅はなく空き地か公園、お店などでした。そして、「奇跡の一本松」の周辺以外には津波の痕跡はほとんどみられない状況でした。全国大会の会場が海岸近くでしたが、山を切り崩して作った新しい街といった風景でした。

わたしは、この街には震災支援で三回約三週間お邪魔しました。十年前になりますね。そのころは、まだ津波の傷跡が生々しく、体育館は津波で建物の中に流された車が二、三台転がっていたり、ペシャンコになった消防自動車がグランドに並べてあったりと目を覆うばかりの光景でした。それからすると今の街の姿が別世界のように感じました。

大会の一日目の宿泊が岩手県と宮城県の境にある「ホテル三陽」でした。もう夜になると真っ暗で店もなくその日は大人しく寝ることにしました。いつもは、全国の仲間や利用者と交流を深める行事がありましたが、今回はコロナ禍ということもあり交流はできず残念でした。

次の日の朝、いつものように朝早いため五時くらいから散歩にでました。「要谷漁港」（これで「ヨウガイ」と読むのです）に行ってきました。まだ朝日が出ないうちからで港に行くと軽トラが次々と港に向かっていました。漁師さんたちでしょう。出港の準備を終えると次から次に船を出して沖に向かっていきました。漁師さんにあいさつをしたのですが、準備で忙しそうで何の漁に出るのかは聞けませんでしたが、震災当時は身内の方が波にさらわれたこともあり、海に出る地元の方の姿がなかったことを思うと徐々に生活が戻ってきたんだなぁと改めて実感しました。景色だけではなく人の営みを見ることが出来て、こうした日常を大切にしていくことが私たちにできる平和の取り組みではないかと感じています。

残念なお知らせがあります。九月に山脇百合子さんがお亡くなりになりました。山脇さんには法人設立資金集めのためのテレホンカードの挿絵や後援会のパンフレットの挿絵にご自身が書いた絵を提供していただきました。さらに法人への支援もしていただきました。わたしも以前は毎年二回きょうされんの物品販売の配達にご自宅に伺わせていただき、ご挨拶させてただいていましたが、ここ最近お身体の関係もあり控えさせていただいていました。訃報を聞いて大変驚きました。ご冥福をお祈りいたします。

１９９８年１０月０９日　第三種郵便物認可　　（毎月３回８の日発行）
２０２２年１２月２３日発行　ＳＳＫＵ　　増刊通巻　７４９２号

特集

大会テーマ
ここから
つたえ　つなぎ
あしたを生きる

きょうされん全国大会 in いわて

開催趣旨

～東日本大震災１１年目の「ありがとう」を全国に。 震災の真実と教訓を未来 （あした）へつなぐ～

全国の仲間たちと集い、つながり、学び合う二日間。

▲陸前高田市長

▲きょうされん理事長

📅主なスケジュール📅9月30日・10月1日

◆基調報告

『東北、陸前高田の地で考える　震災・戦災と障害のある人』

◆特別シンポジウム

『ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくり』

◆利用者フォーラム

◆特別分科会『震災を振り返る』

◆視察観光

◆分科会

▲大会マスコット

１９９８年１０月０９日　第三種郵便物認可　　（毎月３回８の日発行）
２０２２年１２月２３日発行　ＳＳＫＵ　　増刊通巻　７４９２号

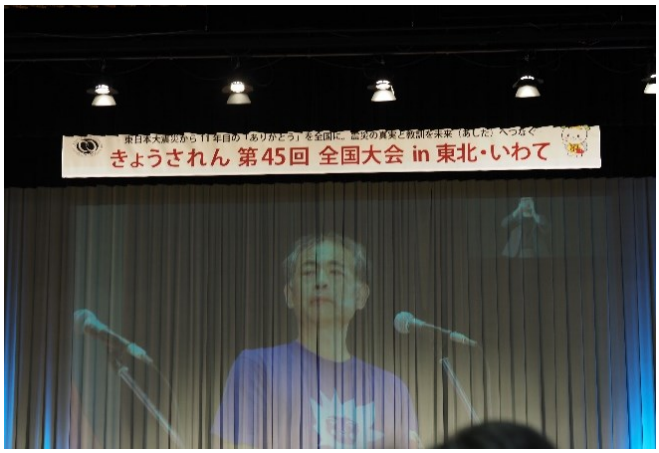
▲オープニングセレモニー

▲会場周辺の様子

❓きょうされんとは❓

１９７７年に障害のある人たちの願いをもとに、１６カ所の共同作業所によって結成されました。現在は、就労系事業をはじめ、グループホームや相談支援事業所など、障害のある人が生きていく上で関わるすべての事業を対象としており、約 1,860 カ所の会員（加盟事業所）により構成されています。

▲高台からの陸前高田市



✏歴史✏
一九七八年六月
きょうされん（共同作業所全国連絡会）
第一回全国集会（東京）
でおこなわれました。
スローガン
「働こう障害者も働けるんだ僕たちも」
今回で四十五回目を数えます。

▲ヘラルボニーの展示

１９９８年１０月０９日　第三種郵便物認可　　（毎月３回８の日発行）
２０２２年１２月２３日発行　ＳＳＫＵ　　増刊通巻　７４９２号

～個性が輝く場所に～

岩手県の陸前高田市。東日本大震災で多くの方が亡くなり、甚大な被害を受けた被災地です。全国大会はコロナウィルスの影響で三年ぶりの対面開催となりました。当日は様々な工夫をして頑張っている事業所さんや、イキイキしたメンバーの皆さんの姿を拝見させていただきました。オープニングセレモニーでは岩手県出身のシンガーソングライター、あんべ光俊さんと全国の仲間有志の皆さんが開催の始まりを盛り上げてくれました！あすなろホーム・千葉昭郎さん作の“ビルドバックベター”は「より良き再建を」の、願いで希望の未来と多くの人に感謝がつづられた素敵な曲で、参加者もスタンディング手拍子で開会を喜ぶことができました！

シンポジウムでは、今回の実行委員長で陸前高田市市長の戸羽太さんが「ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくり」を拝聴させていただきました。

東日本大震災で壊滅的な被害を受け、多くの方々が亡くなり、耐えがたい想いを抱いている方が多くいる中、尊い命を守る為、二度と被害を出さない為に掲げた復興計画は、ただインフラの復旧、災害対策をしていくためだけでなく、障がいの有無、老若男女、在住、観光客、支援者、誰もが快適に過ごせるような街づくりを目標として打ち出されています。

後世に震災の経験、教訓を語り継ぐ為に街の若手、中堅職員をチームの主役と伺い、陸前高田市が今後どんな素敵な街になっていくのか、未来はとっても明るいんだ！と、感じました。シンポジウムを拝聴して街を歩いてみると、建物には小さい段差も少なくされており、看板は低く、点字が打ってあることが目に入り、戸羽市長が掲げた「マイナスからチャンスと希望にあふれた街づくり」を感じました。

“震災にあったから”ではなく、自分たちの住む街を素敵な街にしていきたい、という街の方々の想いが詰まった素敵なシンポジウムでした。私も、「自分は活動する地域において、どのような取り組みが出来るのかな。」と考えるきっかけになりました。

分科会では「働く～あなたがいないと困るんだよ。そんな仕事をつくりませんか～」に参加し、アートやものづくりを通してありのままを表現する利用者さんとスタッフの姿をスライドショーで拝見しました。分科会の質疑応答の中で、「職員の仕事とは、“同じ時を過ごす”ことだと思います。」と、話されていたのぞみファクトリーさんはとても素敵な和紙をミルクペーパーで製作されていました！

ユーモラボ（福祉業界のデザインに特化した組織）と共働して、“売れる紙製品”を実現し、デパートやネット注文が

１９９８年１０月０９日　第三種郵便物認可　　（毎月３回８の日発行）
２０２２年１２月２３日発行　ＳＳＫＵ　　増刊通巻　７４９２号

多いのですが、繊細な色遣いや、名刺のイングにも耐えられる強度があって“かわいい！”と、心弾む商品でした。「専門的な視点、意見はプロ（ユーモラボ）に、お任せして、自分たちはプロとしてメンバーさんと関わっていくことに主を置いています。」と、ブレない信念が、素敵なアートや創作活動を産むんだな。と、勉強になりました。

自分たちが芸術的な視点を持つのではなく、利用者に寄り添い、この人にとって“働く”という概念を私たちの考えに留めないで、「その人にとっての仕事って何だろう？」と、原点に返り、一人ひとりのありのままの個性が輝いていくような“仕事”を考えていきたいと感じることができました！

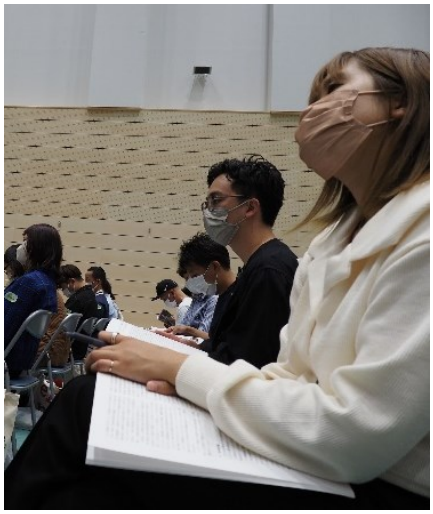
入職したばかりですが、今回参加させていただきありがとうございました！今回の全国大会を踏まえて、これからも、皆さんの“明るく楽しい個性が輝く場所”をつくっていけるように頑張ります！**（のぞみの家　小林健太）**

～視点を変えながら～

イリアンソスに就職して二年半。きょうされん活動は、東京支部ニュースの広報出版委員として参加させていただいています。会場には全国各地から大勢の人が集まっていて、再会を楽しまれていました。横の繋がりを感じることができる大切な場所になっているのを実感しました。

分科会では「働く」に参加してアートについて学びました。のぞみの家のおひさま班ではアートをメイン活動としており、数年前からは株式会社ヘラルボニーとコラボレーションしています。分科会のアドバイザーでもあるヘラルボニー代表の松田文登氏は、「我々はアーティストの皆さんにご飯を食べさせてもらっている。皆さんがいなければ困る」といった話をされていました。そうした中で「企業からコラボレーションの依頼をもらったらいち早くアーティスト本人に話ができるようにしている」とのことでした。皆さんの絵画やヘラルボニーとの関わりをもつおひさま班の職員として、自分自身もヘラルボニーの思いをアーティスト本人まで繋げられるように一つずつ丁寧に関わっていきたいと思います。レポーターの「アートを大事にしないとアーティストを粗末にしているよう」という言葉を第一に考えていきます。

私はおひさま班の職員になるまで絵画に触れたことがありませんでしたし、今でも名画と呼ばれる絵画の良さがよくわかりません。ですが分科会を通して、名画の良さをわかる必要なないことを感じました。当たり前や普通はこうといった固定概念ではなく、その人の幸せは何かな？どう視点を変えたら新しい価値が見つかるかな？といった我々の概念を変える事を大事にしていきたいと思いました。これからもおひさま班の皆さんで素敵な絵画を生み出していきたいです。**（のぞみの家　菅野優香）**

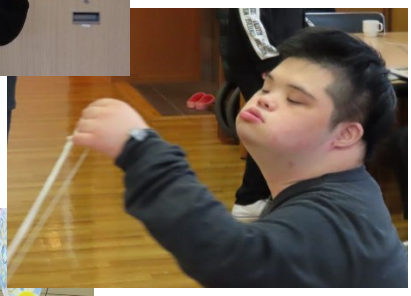


▲全大会参加のイリアンソス職員

１９９８年１０月０９日　第三種郵便物認可　　（毎月３回８の日発行）
２０２２年１２月２３日発行　ＳＳＫＵ　　増刊通巻　７４９２号

活動センターかなえ～入所と成人を祝う会～

法人全体で行われていた新入所者と新成人を祝う会ですが、二年ぶりに開催しました。以前はこもれびホールの会場を借り、法人全体の行事として開催していましたが活動センターかなえにて行いました。二年ぶりということもあり、今年新入所の方、新成人の方と昨年入所された方、成人を迎えた方のお祝いを兼ねて行いました。今回は来賓としてご家族の方、のぞみの家・なかまの家からも代表で利用者さんにも参加して頂きました。市内の飲食店に昼食を注文して食べ楽しいひと時を過ごすことができました。



▲入所と成人の皆さん

なかまの家～日帰り旅行～

なかまの家では、一一月二十一日と二十八日に日帰り旅行を楽しんで来ました。一日目は大型バスを貸し切り、広々としたスペースでテンションも上がり、思わず笑顔が溢れます。二日目はマイクロバスでしたが、小回りがきく分、ルートには無かった志村けん氏の銅像や西武ドームなど寄り道をしながらドライブも楽しめました。ランチは所沢の老舗ホテル掬水亭での中華コース料理。とても人気で一般のお客様も満席状態。普段は賑やかな利用者さんもレストランの雰囲気に溶け込んでゆっくりと食事を満喫しています。食後は多摩湖へ。眩しい程の湖面と遠くには霞富士。開放的な景色の中、のんびりゆったり散歩を楽しみました。コロナ禍以降、初の旅行と言う事で、事前のＰＣＲ検査などの対策を行いながら、ギリギリまで感染の不安を抱えながらの今回の旅行。当日の快晴の空が「やっとだね～楽しんでおいで～」と語りかけてくれているようで、三年間の我慢が吹き飛んだ一日となりました。

１９９８年１０月０９日　第三種郵便物認可　　（毎月３回８の日発行）
２０２２年１２月２３日発行　ＳＳＫＵ　　増刊通巻　７４９２号

ご寄付をいただきました（１２月まで）
法人各施設にご寄付をいただいております。誠にありがとうございました。
いただいたご寄付は法人各施設の充実や、将来構想の資金として大切に使わせていただきます。

藤田祐子様　　﨑原照代様　　イリアンソス後援会様

ありがとうございます。

社会福祉法人イリアンソス

●のぞみの家
東久留米市下里２－７－１８
０４２－４７３－９０２７
０４２－４７３－９０３６（F）
nozomi@iriansos.or.jp

●活動センターかなえ
東久留米市南沢２－２０－５１
０４２－４５２－６４０５
０４２－４５２－６４１５（F）
kanae@iriansos.or.jp

●なかまの家
東久留米市中央町２－１－４７
０４２－４７２－７１３０
０４２－４４４－３７２２（F）
nakama@iriansos.or.jp

●生活寮「うみ」「そら」「にじ」「かぜ」
東久留米市下里４－２－７
０４２－４７６－３４００
０４２－４２０－５１２６（F）
sora@iriansos.or.jp

●生活寮「にじ」「かぜ」
東久留米市下里５－１０－１０
０４２－４２０－９９４３
kaze@iriansos.or.jp

●このみ
東久留米市幸町３－８－２３
０４２－４７３－９６６７
konomi@iriansos.or.jp

～編集委員のつぶやき～
今年の漢字は「戦」でした。6 年間続けてきた長男の野球が 12 月で終わります。色々な戦いを一緒に見てきて子供たちの成長と共に、たくさんの感動をもらいました。皆さんにとっての今年の漢字は何ですか？
中西香奈（のぞみの家）

《発行》
特定非営利法人障害者団体定期刊行物協会
〒157-0072　東京都世田谷区祖師谷 3-1-1
ヴェルドゥーラ祖師谷 102 号室
Tel 03-6277-9611/Fax 03-6277-9555
《企画、編集》
社会福祉法人　イリアンソス
〒203-0043 東京都東久留米市下里 2-7-18
Tel 042-473-9027/Fax 042-473-9036
《編集委員》
磯部光孝・多田由美・吉田遊佑・津田雪枝
疋田史江・花形優　・安達聡　・中西香奈
※ホームページからもご覧いただけます。

定価100円

表紙の写真
のぞみの家の屋上でいちご狩りをやりました。会場を手作りで設営して、いちごを吊るして採りました！皆さん大盛り上がりでした。